

2014年(平成26年)3月18日 火曜日

# ITで離島教育支援

多良間島など

## 「15の春」応援P発足

【那覇支局】島を離れて高校に進学する、多良間、南北大東の3島の中学生を対象とした「沖縄離島15の春 旅立ち応援プロジェクト」が17日発足した。IT(情報技術)を活用し離島教育の充実化に向けた取り組みを支援するもので、2014年度に本格始動。タブレット端末を使った教材を開発し、自立した生活を送るために必要な課題解決などを養成する。

同事業はこのほか、島の自然や歴史、文化などをまとめた地図を作成し、英語で発信する「Shimap!」(シマップ)の実施や、スマートフォン(多機能型携帯電話)のトラブル回避術などが学べる「親子ケータイ教室」を開催する。生徒らが使用するタブレット端末は沖縄セルラー電話が30台を無償提供し、高速通信規格サービス「LTE」を利用。通信料も同社が負担する。

会見に出席した伊良皆光夫村長は「プロジェクトを通して、生徒の生活力や生きた力をさらに高めていけると期待している。離島の子どものための大きな力になる」と語った。

同事業は地域活性コンサルティングなど行うカルティベート(那覇市)、沖縄セルラー電話(同)、KDDI(東京都)、若林靖永京都大教授(NPO教育のためのTOC日本支部理事長)で実施。事業期間は来年3月末まで。17日、4者が那覇市の沖縄セルラー電話で会見し、概要を説明した。写真Ⅱ。

タブレット端末を活用した教材は、新年度から開発に着手する。「学校の勉強



同事業はこのほか、島の自然や歴史、文化などをまとめた地図を作成し、英語で発信する「Shimap!」(シマップ)の実施や、スマートフォン(多機能型携帯電話)のトラブル回避術などが学べる「親子ケータイ教室」を開催する。生徒らが使用するタブレット端末は沖縄セルラー電話が30台を無償提供し、高速通信規格サービス「LTE」を利用。通信料も同社が負担する。

会見に出席した伊良皆光夫村長は「プロジェクトを通して、生徒の生活力や生きた力をさらに高めていけると期待している。離島の子どものための大きな力になる」と語った。